



平成二十八年度 定期総会開催



平成5年5月10日創刊
平成28年7月31日発行
(第93号)

二松學舎大学父母会
(本部・事務局)
東京都千代田区三番町6番地16
二松學舎大学学生支援課

題字は
故 観山貞廣常吉先生書

平成二十八年度五月二十八日(土)午後一時三十分、九段一号館中洲記念講堂において、平成二十八年度二松學舎大学父母会定期総会が開催された。

総会に先立ち、学校法人二松學舎理事長水戸英則先生による「私学経営環境と二松學舎大学」と題した講演会が行われた。

午後二時三十分、結城文子氏の司会により総会が開会され、田中福男父母会長、菅原淳子学長がそれぞれ挨拶をした後、南條麻里議長により議事に入った。

第I号議案の平成二十七年度事業報告並びに決算については、審議の

結果、原案どおり承認された。

第II号議案の平成二十八年度役員選出は、会長に渡邊勝文氏、続いて会計監査に田沼好志枝氏と久田恵美氏が決定した。

第III号議案の平成二十八年度事業計画並びに予算が審議され、それぞれ原案どおり承認された。

議事終了後、平成二十八年度で役員を退任した田中福男氏、小沢規久子氏、倉持政江氏、吉田広美氏の四名に菅原学長から感謝状と記念品が贈呈され、総会は終了した。

午後三時五十分から、会場を九段一号館十三階のラウンジに移し、教職員と父母との懇親会が開催された。



父母会活動 — 学生と大学の応援団として —



父母会会長 渡邊勝文

ご父母の皆様には、日頃より父母会の活動にご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。また、多くの新入生を

迎えられたことは、父母会と致しまして大変喜ばしい事です。

去る五月二十八日の総会で会長に承認されました。

一年間よろしくお願いいたします。

この父母会は、平成五年に発足し、「大学と学生の父母の連絡係として、さらに、学生に対する教育指導

の徹底及び大学側の支援」を目的としています。即ち、学生と大学の「応援団」です。そのため、今年度も昨年同様

な事業を総会時に提案したところです。主な事業として、① 地区別父母懇談会の開催です。今年度は、全国八会場で開催し、大学側と協力して実施します。② 卒業

パーティーの実施です。今年度は、会場を九段の「ホテルグラン ドパレス」で実施する予定でいます。他大学では、学生が実行委員

会形式で実施していますが、当大学では、学生の負担を軽減させ、就職活動等がスムーズにさせるために父母会が実施しています。

③ 奨学金制度です。公立学校教育採用試験合格者や父母会の指定した資格取得等した学生に対して、三〇五万円を支給します。

また、来年度は、二松學舎大学が創立一四〇周年を迎えます。この大学が、過去・現在・未来へと伝統を継承していく一躍として、応援できる父母会でありたいと考えています。

父母の皆様方のご支援、ご協力をお願いし、役員一同、一生懸命努力いたしますので、よろしくお願いたします。

新役員紹介 — 役員に就任して

後藤 眞代

この度、縁あって父母会役員を務めさせていただくことになりました。後藤と申します。

伝統ある、二松學舎大学の父母会役員として携わることができ、緊張の中にも新鮮さを感じております。

右も左もわからないひよつ子ですが、父母会を通し、学生の皆さんと学校の架け橋になれるよう微力ながらお手伝いできればと思っております。

田中 清美

本年度、父母会役員を務めさせていただくことになりました。

四月の入学式から四ヶ月が経ち、息子は、目標に向かって大学生活を楽しく過ごし始めたようで、嬉しく思っております。

父母会役員として、これからの出会いと経験を大切にしながら、少しでも役に立てるよう努めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

中澤 稔

本年度、父母会役員を務めさせて頂くことになりました。心から喜びと感謝の気持ちで一杯です。

総会に出席した際に、大学の教育方針や父母会との連携について知る事ができました。懇親会では学長はじめ諸先生方とお話をする機会を持つ事ができ、伝統ある二松學舎大学で学べる子の親として安堵と期待の気持ちで一杯です。微力ですが、大学の発展と学生の皆様のご支援の力添えになれるよう尽力する所存です。

横澤 淳一

はじめまして。本年度、父母会役員を務めさせていただくことになりました。

長く学校の役員活動からは遠ざかっておりましたが、先月の父母会総会に参加し、学生支援を中心とした学校生活支援内容を拝見し大変感服いたしました。

微力ではございますが、父母会諸先輩の皆様、学校関係者の皆様のご協力を頂きながら、より良い父母会活動に貢献していきたい所存です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

ごあいさつ

学生の満足度
調査から

学 長 菅原淳子



春セミナーも終わりに近づき、大学では期末試験の時期を迎えました。図書館やラーニング・コモンズで勉強をしている学生の姿を、多く見かけるようになりました。また、4年生は就職や公務員を目指す学生を含めて、就職活動に余念がありません。

5月の父母会総会に始まり、今年度の地区別父母懇談会も7月31日の新潟会場で一段落となります。今年も北は青森から南は鹿児島まで、7会場で懇談会を開催し、父母の皆様

に大学の現況やお子様

の学習状況をご報告させていただきま

した。

懇談会でも少しお話し致しましたが、今年の1月に両学部

の1年生と4年生を対象に

学生の満足度調査を8年ぶりに実施致しました。

ある程度の項目が他大学と比較できるようなアンケート内容にしたところ、

本学の学生は他大に比べ教員と接する機会が相対的に多く、

体験的学習やリアクション・ペーパーの活用などにも

少人数教育の特性があらわれております。

さらに卒業を控えた4年生では、75%の学生から「将来に役立つ知識やスキルを学ぶ」

ことができたという評価を得ており、

大学としても大変嬉しく受け止めておりま

す。

また、施設設備など学習環境の

いっそうの充実については、法人の

協力を得てさらに努力して参ります。

満足度調査の結果を受けて、

着実に教育改革を進め、

本学の建学の理念である

社会に貢献できる学生の育成に

邁進して参ります。

今後

も本学の教育・研究に対するご

理解とご支援をよろしく願

い申し上げます。

「アクションプラン27」

理事長 水戸英則



「N2020PLAN」の実行計画である「アクションプラン」の実行状況は、「アクションプラン年次報告書」に取り纏め、大学ホームページに公表しております。

27年度アクションプランの大学関連実施事項は、大学1号館の改修等のキャンパス整備計画、公務員試験対策講座の強化、奨学金制度の拡充や、大学教育の質的転換策、例えば、次世代型学習施設「ラーニング・コモンズ」を活用したアクティブラーニングの推進などが着実に進められました。

これらの対応により、平成27年度

も文部科学省の「私立大学等改革総合支援事業、タイプ1」教育の質転換型」に採択され、経常費補助金の加算措置を受けることができました。

一方、学生ポートフォリオの利用者の拡大、大学院の内部進学者の増加、教員のFD活動の活性化等、進捗が遅れている課題については、重点課題を抽出し、毎月開催する「アクションプラン推進管理委員会」において、各課題への取組計画について担当部局からの説明・報告を徹底し、課題の改善を加速化させております。

本学の一連の学校改革の動きは、事務組織においては浸透・理解され、教員組織においても、その浸透度を増しています。

今後も、役員・教職員が丸となって「アクションプラン」に掲げる課題を着実に達成して行くことが、「N2020PLAN」に掲げた二松學舎大学の将来像実現の鍵となるものと確信しております。

平成28年度 二松學舎大学 父母会定期総会議事録

日 時：平成28年5月28日(土) 13:30~17:30

場 所：九段校舎 中洲記念講堂

講 演：「私学経営環境と二松学舎大学」

学校法人二松學舎理事長 水戸 英則 先生

出席者：本年度会員数 2,830名

委任状 972名

出席者 72名 合計 1,044名

大学側：菅原学長、高野副学長、磯副学長、

森野学務局長、西園教学事務部長、

小西学生支援課長、竹内学生支援課員

1. 開会の辞 司会 結城文字子氏

司会者より「本日総会時の会員数は、2,830名であり、父母会会則第9条により委任状を含めて566名の出席が必要です。本日の出席者は72名。委任状は972名。合計1,044名です。よって本日の総会は成立する。」との説明があった。

続いて、田中福男父母会長、菅原淳子学長からそれぞれ挨拶があった。

2. 議長指名

司会者より「総会の議長は父母会運営細則により会長または会長の指名するものとなっており、会長より南條麻里さんが指名されているので、南條議長のもとで議事を進行させたい」との説明があり、南條氏が席についた。

3. 書記・議事録署名人指名

南條議長が書記及び議事録署名人として次の各氏を指名した。

書 記	田中幸子氏
議事録署名人	安達香里氏、鈴木千晶氏

4. 議 事

◇第Ⅰ号議案〈平成27年度事業報告並びに決算〉

田中会長より、議案書に基づき概要説明があり、続いて小沢会計監査より監査報告があった。審議の結果、原案のとおり承認された。

◇第Ⅱ号議案〈平成28年度役員選出〉

南條議長から、会則第6条・9条及び父母会運営細則第3条に基づき、総会において役員（会長・会計監査）を選出することとなっているとの説明があり、その選出方法について諮られた。

選出方法が議長に一任されたのを受け、南條議長から前回同様、大学側に候補者の推薦を依頼したいとの提案があり、承認された。依頼をうけた大学側（森野学務局長）より次の各氏が推薦された。

会 長 渡邊勝文氏

会計監査 田沼好志枝氏、久田恵美氏

南條議長が大学側から推薦された各氏について諮ったところ異議なく承認された。

続いて渡邊新会長より就任の挨拶があった。

◇第Ⅲ議案〈平成28年度事業計画並びに予算〉

渡邊新会長より、議案書に基づき概要説明があった。審議の結果、原案のとおり承認された。

議事終了後、下記の退任役員へ菅原学長より感謝状と記念品が贈呈された。

田中福男氏、倉持政江氏、吉田広美氏、小沢規久子氏

5. 閉会の辞 司会 結城文字子氏

◇懇親会

九段校舎13階ラウンジに移動し、懇親会が開催された。

17時30分、盛会のうちに終了した。

平成28年5月28日

議 長	南條 麻里	Ⓜ
議事録署名人	安達 香里	Ⓜ
議事録署名人	鈴木 千晶	Ⓜ
書 記	田中 幸子	Ⓜ

ニュースIR発刊にあたって

IR (Institutional Research) とは、大学組織において何らかの決定を行う際に、それをサポートするための「情報収集と分析」を意味します。

近年、大学教育の質保証、管理運営の高度化、情報公開の促進を担うものとして、このIRに大きな期待が寄せられています。IRには、①認証評価機関への対応など外部評価への対応業務を重視したIRや、②大学の経営活動の改善を重視したIR、③学修成果の評価などを通して大学の教育活動の改善を重視したIRといったように、大学により様々な活動が展開されています。とは言え、そうした活動に共通するのは、大学という機関の計画立案、政策形成、意思決定を支援するための情報を提供することであり、課題解決に向けた大学の運営や対応、対応策の実現に貢献していくことと考えています。

二松學舎大学でも、平成26年10月より「学務課」を「大学改革推進課」に改組し、平成28年4月からは「IR推進室」を設置して、さらにIRを推進する体制を強化してきました。本学の先生方も熱意と情熱を持って教育に当たっていますが、自らが目にする周りの学生の特性、これまで歩んできた環境や経験値といった自分が生きる日常世界に囚われがちです。一方で、世界は今、急速に情報の高度化、グローバル化が進展し、多様な背景を持った学生が入学してきています。そうした日常世界の変革が進む中であるからこ

そ、学生たちの学修成果を客観的に捉え、分析し、次の改革へ繋げて行くPDCAサイクルの確立が求められていると言えます。

本学では、これまで「Student First」の理念の下、「学生による授業アンケート」を行い、学生の学修時間や教育の成果等について確認し、学生の学修時間が着実に増加していることや各先生方の授業について学生がどのようなことを望んでいるかなどをフィードバックし教育の改善に結びつける努力を行っています。また、本年1月には「学生の実態・満足度調査」を行い、学生の満足度や学生生活の実態などを把握しました。今後、アンケート調査の分析から浮かび上がってきた教育改善の方向性や学生生活の環境改善に取り組んで参る所存です。また、高大接続改革を控え、本学の養成する人材像に適った教育課程の編成に努めるとともに、選抜方式別の退学率分析などによって、現状の選抜方式の問題点を客観的に捉え、本学の教育課程により養成される人材像に相応しい素養を持つ入学者を如何に選抜するのが適当なのか、種々検討や改善を図って参りたいと考えています。

今回、こうした本学の取組みを些かなりともご理解いただくために「ニュースIR」を発刊することとしました。

保護者の皆さま方のご期待に比べれば、未だささやかな活動ではありますが、お預かりしている学生たちの学修成果や教育の成果を可視化し、教職員一体となった共通認識の下、教育改革や学生生活の改善に取り組んで参ります。どうぞ引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年度役員

氏名	役職	学年	氏名	役職	学年
渡邊 勝文	会長	4年	鈴木 千晶	委員 (広報)	2年
南條 麻里	副会長	3年	宮脇 正裕	委員 (広報・会計)	2年
森野 崇	副会長 (学務局長)		安達 香里	委員 (広報)	2年
田沼 好志枝	委員 (会計監査)	4年	白根 真弓	委員 (広報)	2年
三原 由美子	委員	4年	後藤 眞代	委員	1年
田中 幸子	委員	4年	田中 清美	委員	1年
酒井 継美	委員 (企画)	3年	中澤 稔	委員	1年
結城 文子	委員 (企画)	3年	横澤 淳一	委員	1年
久田 恵美	委員 (企画・会計監査)	3年			



父母会役員



菅原学長と今年度で退任された父母会役員



大学に入学して

桜花爛漫の四月の入学式からはや四ヶ月。七三〇名を数えた新入生もキャンパスでの生活にも慣れ、ようやく大学生らしくなってきました。高校時代とは異なり、自分の裁量・責任で、判断・選択し、創り上げていく生活が始まりました。新たに出会う、様々な経験を得た学友が二松學舎で新しいスタートを踏み出しました。ここでは、大学生活に対する抱負・意気込みを各学科の新入生に書いてもらいました。



一昨年の夏、私はアメリカにいた。高校を卒業し、半年間という短い期間であったが英語を学びたくて留学したのだ。しかし、学べたものは英語だけではなかった。様々な国の人と同じ教室で授業を受け、文化の違いを体験するとともに、自国について、また自国をとりまく国際問題について議論することも多かった。しかし、クラスメートはみな熱く語れるほどの意見を持っていたのに対して、私には事実を把握することすらできていなかったため意見をぶつけ合える仲間を羨ましく思った。そして半年間でプログラムを卒業した後、日本からみた世界を学びたいと思い、本学の卒業生のすすめもあってこの大学に入学したのである。



国際政治経済学科

小島 綾子

「こうしなさい」とも言わずに私のやりたいことをいつも応援してくれた。今回上京して初めて本格的な一人暮らしが始まったが、それを許してくれた父には感謝してもしきれない。また、入学してから素晴らしい友人にも恵まれた。遊びもするが、勉強会を開くなど共に高めあえる友人でもある。受験期間中、一人孤独に自宅で勉強し続けた頃と比べると、こんなにも授業が魅力的で向上的に取り組める環境が整っていることが二松學舎大学に入って一番嬉しかったことだ。

そして、今の私の目標は、生活に埋もれないことだ。あつという間に過ぎていく時間の中でも自主的な目標を掲げ、努力することができなければならぬと私は思う。資格や貯金もそうだが、私にとっては人間的に成長することが何より大学生活で大事だと思う。不幸を不幸と思わない素直な心で生活し、めげずに何事にも立ち向かい、時には自分自身を見つめ直し二松學舎での四年間を過ごしていきたいと思う。



国文学科

伊藤 拓人

私がここに来た理由ははっきりしているのだけど、私の意志が大きかったかというところではない。勿論人並に励み、入学許可を得るために頑張ってはきたのだが、他の人の様に崇高な思想や目的は持ち合わせていないのでなんだか申し訳なく思っている。そんな私がこういった場で文章を綴ることになるとはわからないものだ。

さて私が司書を志したのはいつだったか、図書館や学校の図書室に通ううち気付けば私は物静かで優しい司書という存在に憧れていた。

その憧憬が、彼らと同じようにやりたいという欲求に変わり、そうして友達や恩師と話すうちにここ二松學舎大学の存在を知ったのだ。どうやら恩師の方は私が司書教諭をしてみたいと言ったのを聞いて、教員を目指していると思っていたようなのだけれど。

このように言うと怒られるかもしれないが、私は司書資格が取れば大学など何処でもいいと思っていた。正直に言うと、司書が狭き門で

あるということを知っていながらどこかで悔っていて、司書になれなかった場合の未来のことなど微塵も考えていなかったのだ。つまり私は、たった一つしか武器を持たずに戦おうとしていたのだ。

そんな風によく言えば一直線、悪く言えば考えなしの人間である私に勘違いとはいえ教員免許を取るのを勧めてくれたあの人は、やはり、ふうこと無き恩師であろう。結果的には。

入学直後の私は、何故教師になる人間ではないかと思っていたのだが、いくつかの講義を聞き、実際の教育者の、教育者を志す人間達に向けた話はとても興味深かった。ゆえに、私なりのやり方で教育者になることもできるのではないかとそう思わせてくれたのだ。

大学生活において多様な人間達と出会い様々な考えに触れ、少しでも成長することが出来れば良いと願う



中国文学科

矢澤 円香

私が二松學舎大学を知ったきっかけは少し特殊でした。それは、通っていた高校に二松學舎大学の教授が講演をしに来たことでした。その講演、高校生向けのものではなく一般向けの漢詩の講演で、高校は会場となっていただけでした。私たちは「興味があったら参加してもいい。」と言われていたので、私は友人と聞きに行きました。

その時の、教授の講演の内容は漢詩の情景を説明したり、日本語訳の解説をしたり、中国語で漢詩を読んだりと非常に濃いものでした。その講演をきっかけに私は漢文を訓読せずに白文のまま読むことに興味を持ち、中国文学に関して魅力を感じるようになりました。そして、中国文学科の存在する二松學舎大学への進学を考えるようになりました。その後、様々な縁が重なった結果、晴れて二松學舎大学に入学することになりました。

自分が高校生から大学生となり早四ヶ月、周りの環境はとも変わりました。勉強の面では毎日中国語若

しくは中国に関することを勉強し、日々刺激を受けています。中国に関することは一から勉強しているので、毎日様々な発見があり楽しいです。その中では最近では更に勉強したいと思う分野も少しずつできてきました。勉強以外の面では、学生会執行委員会と学園祭実行委員会に入会し、忙しくも充実した日々を過ごしています。二つの委員会の他にも一つの非公認サークルに入会しました。それぞれの団体でタイプの異なる個性的で素晴らしい先輩方に恵まれました。学校では勉強としては教えられることを教えていただいたり、仲良くしていただいたり、まだ半年も経っていないのに、濃い毎日を過ごさせていただいています。

大学生活は四年間。長いとも短いとも言い難いです。後悔せずに生きていくことはできません。楽しいことだけではなく辛いと思うこともありますが、今しかないこの時を一杯生きたいです。どんな思い出もたくさん作り、いつか誇れる日々を過ごしたいです。



文学部 教授

塩沢 一平

学生時代、それは今までの人生の中で一番刺激を受けた時代であった。高校の教員を志望していた私の選択肢に教育学部はなく、国文学科を志望した。教育のプロ教師のようにはないかもしれない。しかし国文学の世界にどっぷり浸かり、その魅力を発信できる教師もいいのではないかと思ったからだ。教員志望



国際政治経済学部 准教授

高岸 直樹

大学三年生の三月、イギリスに向かった。一年生の語学クラスで隣席だった友人の両親がロサンゼルスに駐在しており、前年夏にロサンゼルスに招いてくれたのだが、これがとても楽しく、味をしめたのである。当時は学生のヨーロッパ語学研修や旅行がいまより多かったように思う。私は二週間ほどの旅行だった

が多い二松學舎大学の学生が描く將來像も、似ているかもしれない。学生達が、所属ゼミは毎週一冊小説を読むオニのようなゼミだとニコニコとしゃべっている。また、学会例会に参加した折、二松學舎大学の学生ですと挨拶に来てくれることもある。学部時代から学生が学会に参加し、真摯に勉強している。どっぷり国文学の世界に浸かって、満喫しているように本当に嬉しくなる。

さて、私が入学した大学は、当時日本屈指の教授陣が揃っていた。(と、わかったのは、卒業してから)

私の学生時代

ら大分経った後であった。(特に万葉集の中西進先生は、繰り返し学生に問いを発し、様々考える場を与えてくれた。稚拙な学生の発想も汲み取ってくれる姿勢と発想を広げる授業方法に魅了された。ゼミに入り、「万葉集研究会」にも入会した。どっぷりとまではいかないが古代国文学の世界を楽しんだ学生時代であった。

目指していた教職(私立高校)に就くこともできた。採用面接の終わりに、校長から、なんと採用の旨を告げられた。これには驚い

で一計を案じ、タクシーで城に行くことにし、スーツケースをトランクに入れておいたまま、帰る時刻に迎えにきてもらうことにした。タクシーを動くコインロッカーとしたのである。いまではセキュリティ上、あり得ないだろうが、当時は万

事おろかだった。ところが、迎えに来たドライバーは別の人だった。スーツケースには旅行中の全資産が入っているのだから、これには焦った。しかし、なんとスーツケースはリレーされていたのである。おかげで当日にロンドン

た。数十分の面接時間で分かるのだろうかとか我が耳を疑った。後から聞いたところによると、実は採用担当者中西先生と面識があり、先生への問い合わせによって私の人と成りは既に調査済みであったようだ。その後さらに勉強したくない、高校教員を離れ、大学院に進学することとなった。今こうして二松學舎大学の国文学科で仕事として国文学にどっぷり浸かることができています。振り返ってみると、師と万葉集に出会うことができた、感謝ばかりの学生時代であった。

に帰ることができた。帰りの列車でも、日本人の学生と一緒にになり、煎餅をもらい、さまざまな話をしてロンドンまで帰ったことを憶えている。旅行先ではさまざまな人と会話しなければ生きてはいけない。その後、幾度とイギリスに行くこととなったが、この最初の旅行でのさまざまな経験が私の基礎となつている。しかし、最近では以前ほどには学生を見かけなくなった。昨今のさまざまな事情のためやむを得ないところだが、もし機会があり、安全に行けるのであれば、ぜひ経験して一生の宝物にしてもらいたいと考えている。

【現四年次生の就職活動状況について】

本学では、日本経済団体連合会による「採用選考に関する指針」に基づいた、企業の広報活動・採用選考活動等日程に対応できるように各種の学生支援行事を開催しております。

本年は、四年次に進む直前の春休みに、「SPI講座」「模擬面接特訓」「論文文フオロー講座」「就活マナー講座」「求人票活用講座」「就活メイク講座」「ES書く前講座」等々、多彩なラインナップを揃えて開講しました。このような就職活動前に身につけておくとよい知識やスキルを習得できる講座を受講した後、さらに企業の採用担当の方々と面談できる「学内合同企業説明会」や「企業研究セミナー」を配置する効果的な就職支援体制を確立させております。



全学的な協力のもと、多くの四年次生が参加しました。その結果、六月末時点の内定取得状況も昨年を上回るペースとなり、四年次生の努力が実を結んでいると言えます。なお、夏以降も就職活動を継続する四年次生のための支援行事も適時企画してまいります。

【助成をうけた行事等について】

父母会から助成を受けて実施している「日本語能力検定」は、今年度も大人気で定員いっぱい申込みがありました。六月十八日(土)に検定試験を実施し、結果が届き次第フィードバックする予定です。また、今年と同窓会組織の松苓会からの寄付講座「コミュニケーション力養成講座」が夏休みに開催されます。八

キャリアセンターだより 43

月二十九日・三十日の二日間で、企業の採用選考で重視されるコミュニケーション力や主体性、チャレンジ精神を向上させるきっかけをつかむ講座です。十二月二十日にはフオローアップも行います。次年度以降も父母会と松苓会のご支援を得て、学生支援を充実させるようキャリアセンターは尽力いたします。

【キャリアセンターからのご案内】

就職活動支援行事を学内で行うことは、支援対象の就職活動学年だけではなく、その後輩の学生達にも効果があります。学内に掲示されている告知は多くの学生の目に触れます。また、先輩たちがスーツ姿を観ることで就職活動が身近な出来事であることを肌で感じ取る方もいることでしょう。ICT環



境の進化した近年、これらの各種行事は、メール配信やWEBシステムでの予約等が主流となっておりますが、学内掲示版でも告知しております理由のひとつに、他学年次生の「就活」に対する行動意欲が醸成されることへの期待があります。キャリアセンターの全スタッフは二松學舎の学生を応援するサポーターを自任しております。ご父母の皆さまにおかれましては、進路の如何を問わず、キャリアセンターへの提出物は手続きをとるようにご指導をお願い致します。窓口でのやり取りや面談を重ねることが絆を深めるきっかけとなると考えております。今後とも本学のキャリアセンター運営にご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い致します。



平成二十八年学生会執行委員会会長を務めております、国際政治経済学科二年の平塚脩です。新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学生活にはもう慣れましたか。高校までとは全く違う授業や環境に、期待したり戸惑ったりした方もいると思います。まだまだ不安なこともたくさんあることとは思いますが、東京の真ん中で学ぶ楽しさや利便性は、きつとこれから段々と実感していくことができるはずですよ。

さて、四月七日に行った新入生歓迎式典は、新入生と在校生が交流を深めると共に、二松學舎の部活動やサークル等を紹介するために開催いたしました。今回の新入生歓迎式典のテーマは「花信」、コンセプトは、新入生に新しい仲間や友人と出会ってほしい。新入生を温かく迎えるために素敵なおもてなしをしたい。というものでした。新入生と在校生両方の方々に楽しめたと感じていただければ幸いです。今年も平日での開催ということもあり、多くの新入生に参加していただけました。また開催中は部活動やサークルなどの各団体もとても活気に溢れて

いて、私たち学生会執行委員会役員も一緒に楽しむことができました。今回の新入生歓迎式典も新入生の皆さんや父母会の皆様、学生支援課の方々をはじめ、各部活動・サークルの方々、学生会執行委員会役員の仲間たちの協力のおかげで、無事に成功させることができました。心より御礼申し上げます。

そして、新入生の皆さん、改めてしてご入学おめでとうございます。二松學舎大学へようこそ。新入生歓迎式典にご参加いただいた新入生の方々は、ご参加ありがとうございました。これからの四年間が皆さんにとって素敵なものとなること、また、今回の新入生歓迎式典を通じて交流を深めることのできた団体や友人がこれからの皆さんの大学生活をより素晴らしいものにすることを学生会執行委員会役員一同、心より願っております。

これからの四年間、様々なことがあると思いますが、共に頑張ってくださいませ。これからも宜しくお願ひいたします。



本格的な暑さが身に堪える季節になってきました。都心は特に辛いものがありますが、本学は靖国神社が近く桜並木の緑にも囲まれているので、ちよつとした木陰に救われホツとします。学生相談室のフリースペースも一呼吸置いて休めるような心地のいい居場所になればと常々思っています。前回のフリースペースのご紹介に引き続き、今回はフリースペースで行っている活動についてご紹介したいと思います。

学 生 相 談 室

だ よ り 93

カウンセラー **油 谷 理 歌**

クが生まれたり話が弾んだり、和やかな雰囲気になります。他に、ハロウィンパーティーやクリスマス会、卒業生を送る会などを毎年行っています。

また、今年度から『趣味情報交換ノート』というものを始めました。小説や漫画、音楽やアイドルなど学生達の趣味は多岐にわたり、尚且つとても詳しいです。しかし、折角の豊富な話題を共有

できる友人を探すのは難しいとよく耳にしています。そこで、自由に趣味について書き込みができるノートを設置することにしました。まだ手探りではありますが、趣味の共有が進む中でゆつくりとした交流が生まれるようになります。

フリースペースは、それぞれが自由に過ごせる場所ですが、交流を育む場所でもありたいと考えています。学生は、自分に合った居場所や、誰かと心を通わす機会を模索しています。そのきっかけやヒントが少しでも感じられるような柔軟な場所と活動を今後も展開していきたいと思っています。

分は多少緊張感があるものの、一緒に料理をするうちにチームワー

九段祭POP & 柏祭GUTS 開催

学生会執行委員会主催の行事として、六月十九日(日)に「九段祭POP2016」、六月二十六日(日)に「柏祭GUTS2016」を、それぞれ九段、柏キャンパスにて開催いたしました。どちらの行事も、多くの団体、チームの方々に参加していただくことができました。

九段祭POPは文化系団体の発表を行う場として、「ブリズム」というテーマを掲げ、「光を通すと様々な色が生み出されるような」個性あふれる九段祭POPにすることを目標に開催いたしました。今年は、例年の参加団体の他、有志団体の発表も加わり、演劇や展示発表など、団体それぞれの色が見られました。幅広い年齢層の方々にもご来場いただき、とても活気のある行事となったと感じております。

学生会執行委員会企画では、毎年恒例のビンゴ大会を始め、けん玉大会やお絵かきリレー、射的やボーリング、九段キャンパス1号館内全てを使用した犯人探しや運命の人探し、しずく型のカードに来場者や団体の方々に向けた想いを書いていただく企画の「雨月物語」など、昨年とは一味違った企画も数多く行い、来場者や団体の方々にも笑顔で参加していただくことができる良いものとなったと感じております。

柏祭GUTSは体育祭として「いざ、笑舞(しよつぎ)」というテーマのもと、参加者が笑顔になれる行事を目標に球技大会をバレーボールとバスケットボールの二種目で開催いたしました。今年は屋内二競技のみの開催といたしましたが、参加者の比率が例年以上に多く、参加してくださった選手の方々はもちろん、応援や見学にいらした皆様も含め、とても活気に満ちた行事にすることができました。

「九段祭POP2016」及び「柏祭GUTS2016」は参加団体や来場者の皆様、ご協力くださった関係者の皆様のおかげで成功を修めることができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

国文学科二年 大沼 篤 弥

国文学科二年 山口 真里奈



白石ゼミナール

私たちが所属している白石ゼミナールでは、スポーツがもたらす経済効果やビジネスについて研究を行っています。授業以外の活動ではボランティアに参加したり、消防署で普通救命救急士の資格取得に取り組むなど、スポーツを通じて楽しく学んでいるのがこのゼミナールの特徴です。

白石ゼミでは年に一度、夏季休業期間を利用して、二泊三日のゼミ合宿を行うのが恒例となっています。昨年度は群馬県草津町で合宿を行いました。草津とい

えば、温泉が有名だと思われがちですが、ここでは都会から離れ、緑豊かな敷地で卓球、テニス、パターゴルフ、フォレストアドベンチャーなどといったスポーツを楽しむことができました。

四年生では主に卒業論文を執筆するための「学び」を中心に授業を行っています。三年次に調べたテーマをもとにより深く研究していく学生もいれば、新たにテーマを決めて調べていく学生もいます。主にスポーツに関する研究を行っており、学生間で意見を交換しながら様々な観点から見ると、互いに学び合うことができるので、プレゼンテーション

の方法が身に付きます。また、実際に企業で人事を担当している方を招いて面接の練習、ビジネスマナーなども学ぶ事ができるため、就職活動に対して、他のゼミナールの学生たちよりも早く取り組むことができます。

担任の白石先生は常にゼミ生のことを思ってくださり、授業以外にも就職活動や進路に親身になって気にかけてくれるほど、とても学生思いの先生です。そんな白石先生のご指導の下、卒業論文の執筆に向けて自分の研究テーマを探究しています。

国際政治経済学科四年
上川原 暢広



田中ゼミナール

先日、近隣の神社に詣でたところ、「少年老い易く学成り難し、一寸の光陰軽んずべからず」という言葉が紹介されていました。この言葉は、南宋の士大夫、朱熹(一一三〇～一二〇〇)の「偶成」という詩の起句と承句の部分です。

私共のゼミナールは、田中正樹先生の指導のもと、この朱熹により再構成された儒学すなわち「朱子学」の、その淵源となる北宋の道学者等の思考の営みを、

現存する彼らの言葉を頼りに研究しています。彼らの思考の営みを追従することなしに、朱熹の思考の営みを理解することは決して適いません。朱子学は、凡そ近世から近代に至るまで、中国をはじめ日本などの漢字文化圏のエリート達にとり必須の学問でした。現代こそ「朱子学」は表舞台から姿を消しましたが、現在も日本人のコモンセンスにどこか影響を留めているように思われます。

ゼミナールで扱っているテキストは、朱熹が編纂した『論語精義』です。白文のもと、

徳川時代の和刻本とを用いています。『論語精義』は、北宋の道学者等が各々の著作の中で、『論語』の各章について独自の解釈(注)を付しているのを、朱熹が一冊にまとめ、整理したものです。

ゼミナールでは、週毎に発表者が担当した箇所を訓点を施し、書き下し文と訳、またその作業に伴う資料等を揃えて発表します。この作業行程を三年次より繰り返し、読解力を深め、時に切磋琢磨してきました。

そして愈々卒業研究の作業に入りました。目下、夏合宿での構想発表の準備に取



り組んでいます。大学四年間の集大成として皆一所懸命です。
中国文学科四年 桜井亮介

ゼミ 探訪

平成27年度決算の概要

二松学舎創立135周年(平成24年10月)を機に策定した長期ビジョン「N'2020 Plan」及びその実行計画「アクションプラン」の各課題について、施設設備整備をはじめ大学・両附属高校・中学校の具体的な改革を実行している。教育研究面においては、本学の研究プロジェクト『近代日本の「知」の形成と漢学』が、【文部科学省】平成27年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択された。また、大学九段校舎1号館に国際政治経済学部教員個人研究室を設置、3階学務局フロアの全面改修及び講師室の移設など既存校舎の改修、附属高校野球部柏合宿所の全面改修などの施設整備のほか各種事業を実施した。

当年度、入学者の募集定員充足率は、大学/学部116%、附属高校100%、柏高校144%、柏中学校42%であり、在籍者の収容定員充足率は、大学/学部118%、附属高校99%、柏高校133%、柏中学校53%であり、大学院および柏中学校で入学定員、収容定員ともに未充足となった。

大学では、平成23年3月11日に発生した東日本大震災並びに福島第一原子力発電所事故、平成27年9月10日の北関東・東北豪雨に伴う被災学生に対し、授業料等の減免措置を実施し、全学的に被災学生支援のための募金活動を行った。

平成25年4月に学校法人会計基準が改正となり、財務計算書類の大幅な書式変更が行われ、文部科学大臣所轄の学校法人(本法人)は平成27年度決算から新基準が適用となる。

従来、学校法人における決算書は、事業年度の消費収入と消費支出の均衡状態や財政の健全度合いを示す「消費収支計算書」、学校法人の諸活動に関わるすべての資金の流れを示す「資金収支計算書」および年度末における資産・負債・正味資産の状態を示す「貸借対照表」の3つであった。

改正後、「資金収支計算書」は、多少の科目名の変更があるがほぼそのままである。新たな附属表として「活動区分資金収支計算書」が加わり、「教育活動」、「施設整備活動」、「その他の活動」に3区分し、資金収支情報の充実が図られた。

消費収支計算書は、「事業活動収支計算書」として名称が変わり、大きく書式変更となった。新基準では、「教育活動収支」(本業)と「教育活動外収支」(財務)の経常収支と臨時的な「特別収支」に区分され、基本金組入前当年度収支差額(従来の帰属収支差額)を表示する様式となった。

平成27年度の決算概況

1. 事業活動収支計算書について(別表1)

事業活動収支計算では、事業活動収入合計が54億6千3百万円、事業活動支出合計は52億5千7百万円、基本金組入前当年度収支差額は2億6百万円の収入超過(前期比3億9千万円減少)となった。基本金組入額は8億2千9百万円(このうち九段校舎改修5億9千5百万円、柏合宿所改修整備1億8千万円)であり、当年度収支差額は6億2千3百万円の支出超過となった。

教育活動収入では、入学者数が大学院14名・学部697名・附属高校251名・柏高校358名・柏中学校43名、合計1,363名で前期比33名減少、在籍者数は大学院43名・学部2,826名・附属高校745名・柏高校997名・柏中学校162名、合計4,773名で前期比65名増加し、学生生徒等納付金は39億5千6百万円(前期比7千1百万円増加)となった。経常費補助金は8億9千3百万円(うち国庫補助金2億6千8百万円、東京都補助金2億5千1百万円、千葉県補助金3億2千7百万円)、事業収入が3百万円、雑収入は1億7千4百万円(うち退職金団体交付金1億1千9百万円)で合計52億円となり、教育活動支出では、人件費が28億1百万円(柏高教員増加等、退職給与引当金減少等により前期比3千6百万円増加)、教育研究経費は18億4千1百万円(校舎改修による修繕費及び減価償却額増加等により、前期比4千8百万円増加)、管理経費は5億5百万円(広報費等増加により前期比7千6百万円増加)であり、教育活動収支差額は4千6百万円の収入超過、資産運用収入及び借入金等利息などの教育活動外収支差額は1億4千9百万円、経常収支差額は1億9千5百万円、資産売却及び資産処分差額等の特別収支差額は1千1百万円であった。

2. 資金収支計算書について(別表2)

収入の部では、有価証券の償還等により資産売却収入が22億8千8百万円(前期比4億8千6百万円増加)、借入金収入が大幅減少(前期は大学九段4号館建築資金を私学事業団から6億9千4百万円借入)し、学納金等の前受金収入は10億5千1百万円、その他の収入は退職給与引当特定資産等からの繰入収入、前期末未収入金収入等により3億7千2百万円、前期繰越支払資金29億9千8百万円を含め収入の部合計額は109億4千1百万円となった。

支出の部では、人件費支出が28億3千1百万円(柏高教員及び大学職員増加、前期比7千7百万円増加)、教育研究経費支出は12億8百万円(前期比2千7百万円増加)、管理経費支出は4億7千2百万円(前期比7千4百万円増加)、借入金返済および利息支出は3億4千2百万円となった。施設設備関連の支出は既存施設の改修整備として5億4千万円、図書・備品の購入等で8千9百万円、資産運用支出は退職給与引当特定資産繰入、有価証券等購入により26億9千8百万円となった。このほか前期末未払金の支出等1億6千8百万円があり、これらの結果、翌年度繰越支払資金は27億1千2百万円(前期末より2億8千6百万円減少)となった。

活動区分による資金収支の状況(別表3)は、教育活動による資金収支差額は6億7千7百万円(収入超過)、施設整備等活動(設備投資とその財源)による資金収支差額は5億8千7百万円(支出超過)、その他の活動(財務活動等)による資金収支差額は3億7千6百万円(支出超過)、これにより支払資金の増減額は2億8千6百万円(減少)となった。

3. 貸借対照表について(別表4)

資産の部は、有形固定資産が大学九段既存校舎及び附属高柏合宿所の改修整備、図書・備品の取得等により6億3千5百万円増加、除却及び減価償却6億7千8百万円等により184億4千3百万円(前期比4千3百万円減少)となった。特定資産は15億4千9百万円(1千9百万円減少)、その他の固定資産は、有価証券の償還や流動資産への振替等により13億7千2百万円(前期比1億2千9百万円減少)となり、流動資産は65億2千8百万円(前期比3千3百万円増加)となった。

負債の部は、長期借入金及び長期未払金の次年度返済(支払)額の流動負債への振替、退職給与引当金の減少により固定負債は25億6千4百万円となった。また、短期借入金及び短期未払金の返済(支払)等により流動負債は16億1千2百万円となり、負債の部合計額は41億7千6百万円(前期比3億6千3百万円減少)となった。

基本金の部は、第1号基本金(建物・図書・備品等固定資産の取得)及び第3号基本金(奨学基金)の組入額8億2千9百万円により264億2千2百万円となった。

これらの結果、平成27年度末における貸借対照表は、資産の部合計額278億8千2百万円、負債の部合計41億7千6百万円、基本金264億2千2百万円及び繰越収支差額27億1千5百万円(支出超過)により、純資産の部合計額237億7百万円(前期末より2億6百万円増加)となった。

4. 主な財務比率について(別表5)

事業活動収支関係比率では、人件費比率(経常収入に占める人件費の割合)、人件費依存率(学生生徒等納付金に占める人件費の割合)および借入金等利息比率が前期比減少となった。一方、教育の質向上を図るための各種事業の実施により教育研究経費比率(経常収入に占める教育研究経費の割合)、管理経費比率(経常収入に占める管理経費の割合)は上昇した。事業活動収支差額(帰属収支差額)比率は寄付金及び資産運用売却差額の減少により前年比減少となった。また、校地校舎の施設整備計画の進捗により基本金組入率は上昇傾向にあったが、新規設備投資が一段落し前年比減少となり、当年度の既存施設改修整備を以って大規模整備が一段落することとなる。

貸借対照表関連比率では、私学事業団等借入金の返済により固定負債構成比率(総資金に占める固定負債の割合)及び総負債比率(総資産に占める総負債の割合)並びに負債比率(自己資金に占める総負債の割合)が低下した。固定資産構成比率(総資産に占める固定資産の割合)、固定比率(自己資金に占める固定資産の割合)等が低下し、流動資産構成比率(総資産に占める流動資産の割合)、流動比率(流動負債に占める流動資産の割合)の上昇など固定から流動へのトレンドにあり、良好といえる。また、自己資金構成率(総資金に占める自己資金の割合)、基本金比率、内部留保資産率(財政上の余裕度)、運用資産余裕比率(支出規模に対する資金の蓄積度)、退職給与引当金預金率等は良好な水準にある。一方、設備投資に伴う基本金組入などにより繰越収支差額構成比率(総資金に占める繰越収支差額の割合)は低下傾向にある。

別表1

平成27年度 事業活動収支計算書 (単位：百万円)

教育活動収支	事業活動収入	科目	金額
		学生生徒等納付金	3,956
		手数料	104
		寄付金	70
		経常費等補助金	893
		付随事業収入	3
		雑収入	174
		教育活動収入計	5,200
教育活動支出	事業活動支出	科目	金額
		人件費	2,801
		教育研究経費	1,841
		管理経費	505
		徴収不能額等	8
		教育活動支出計	5,155
		教育活動収支差額	46
教育活動外収支	収入	科目	金額
		受取利息・配当金	178
		その他の教育活動外収入	0
		教育活動外収入計	178
教育活動外支出	支出	科目	金額
		借入金等利息	29
		その他の教育活動外支出	0
		教育活動外支出計	29
		教育活動外収支差額	149
		経常収支差額	195
特別収支	収入	科目	金額
		資産売却差額	60
		その他の特別収入	25
		特別収入計	85
特別収支	支出	科目	金額
		資産処分差額	74
		その他の特別支出	0
		特別支出計	74
		特別収支差額	11
		基本金組入前当年度収支差額	206
		基本金組入額合計	△829
		当年度収支差額	△623
		前年度繰越収支差額	△2,092
		翌年度繰越収支差額	△2,715
(参考)			
		事業活動収入計	5,463
		事業活動支出計	5,257

別表4

平成27年度 貸借対照表 (単位：百万円)

科目	金額
資産の部	
固定資産	21,354
有形固定資産	18,433
特定資産	1,549
その他の固定資産	1,372
流動資産	6,528
資産の部合計	27,882
負債の部	
固定負債	2,564
流動負債	1,612
負債の部合計	4,176
純資産の部	
基本金	26,422
繰越収支差額	△2,715
純資産の部合計	23,707
負債及び純資産の部合計	27,882

別表2

平成27年度 資金収支計算書 (単位：百万円)

科目	金額
収入の部	
学生生徒等納付金収入	3,956
手数料収入	104
寄付金収入	70
補助金収入	911
資産売却収入	2,288
付随事業収入	3
受取利息・配当金収入	178
雑収入	173
借入金等収入	1
前受金収入	1,051
その他の収入	372
資金収入調整勘定	△1,163
当年度資金収入合計	7,943
前年度繰越支払資金	2,998
収入の部合計	10,941
支出の部	
人件費支出	2,831
教育研究経費支出	1,208
管理経費支出	472
借入金等利息支出	29
借入金等返済支出	313
施設関係支出	540
設備関係支出	89
資産運用支出	2,698
その他の支出	168
資金支出調整勘定	△118
当年度資金支出合計	8,230
翌年度繰越支払資金	2,712
支出の部合計	10,941

別表3

平成27年度 活動区分資金収支計算書 (単位：百万円)

科目	金額
教育活動による資金収支差額	677
施設整備等活動による収支差額	△587
その他の活動による収支差額	△376
支払資金の増減額	△286
前年度繰越支払資金	2,998
翌年度繰越支払資金	2,712

別表5

平成27年度 主な財務比率 (%)

比率	平成27年度
人件費比率	52.1
人件費依存率	70.8
教育研究経費比率	34.2
管理経費比率	9.4
事業活動収支差額比率	3.8
学生生徒等納付金比率	73.6
補助金比率	16.7
基本金組入率	15.2
固定資産構成比率	76.6
有形固定資産構成比率	66.1
特定資産構成比率	5.6
流動資産構成比率	23.4
固定負債構成比率	9.2
流動負債構成比率	5.8
総負債比率	15.0
退職給与引当特定資産保有率	100.0
純資産構成比率	85.0

注) 金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計額等が一致しない場合がある。

平成28年度予算の概要

平成28年度の状況

二松学舎創立135周年を機に「長期ビジョン（N'2020 Plan）」を定め、これに基づく行動計画である「アクションプラン」を平成25年度より推進しており、長期ビジョン（N'2020 Plan）及びアクションプランに則って、大学・両附属高校・中学校の改革を推進し、所与の成果をあげる。

大学・学部では、レベルの確保・向上を図りつつ可能な限り入学者の確保に努める。両附属高校及び附属柏中学校においては定員数を満たし、大学院は可能な限り入学者の確保に努める。附属柏中学校は設置6年目となり、附属柏高校との中・高を通じた教育の充実と生徒募集の強化を図る。大学・両附属高校・中学校とも効果的な学生・生徒募集及び広報活動を実施する。

私立学校への経常費補助金の大幅増加は見込めないが、私立大学等改革総合支援事業のほか新設の私立大学研究ブランディング事業（学長のリーダーシップの下、優先課題として全学的な独自色を大きく打ち出す研究に取り組む私立大学に対する経常費・施設設備費の一体的支援）、入学者選抜改革に向けた取り組みに対する支援等の事業に積極的に申請し獲得を図る。

教育活動収支については、収入面では在籍者数減少により学納金収入が減少する見込みである。また、支出面では人件費（退職給与引当金を含む）及び教育研究経費（減価償却額を含む）が増加する見込みである。

キャンパス整備については、大学九段4号館建設、既存校舎の改修など大規模整備は一段落し、今後は各学校校舎の経年劣化により必要となる修繕・保守整備と各種アメニティの充実・向上を計画立てて実行する。

N'2020 Plan（アクションプラン）に織り込まれていない投資は極力抑えることとし、特別事業費申請案件については厳しく査定し、経常的な経費についても見直し・削減を強力に実施する。既存事業の見直しを行い、スクラップ・アンド・ビルドにより事業を推進するとともに、不採算事業項目については縮小・廃止を検討し、収支改善を図ることを平成28年度の予算編成方針とした。

平成28年度の収支状況

1. 事業活動収支予算書について（別表6）

（1）教育活動収支について

【収入】

- ① 収入の柱である学生生徒等納付金は、40億2千2百万円となる見込みである。
- ② 手数料は、入学検定料を主として9千8百万円を見込んでいる。
- ③ 大学及び両附属高等学校並びに柏中学校の経常費補助金は8億9千3百万円を見込んでいる。
- ④ 雑収入は、退職金団体からの交付金8千2百万円と併せて1億2千7百万円を見込んでいる。

【支出】

- ① 人件費は、28億2千8百万円となる見込みである。
- ② 教育研究経費は、施設設備の維持管理、情報システム関連経費、図書館業務のアウトソーシングほか特別事業費および減価償却額などにより、19億1千万円を計上している。
- ③ 管理経費は、教育研究経費と同様に施設設備の維持管理費と事務システム関連経費および減価償却額などにより、5億1百万円を計上している。

これらにより、教育活動による収支差額は4千7百万円（支出超過）となる見込みである。

（2）教育活動外収支について

教育活動外の収入として、資産運用による受取利息・配当金1億2千9百万円を、教育活動外の支出として借入金利息支払額2千3百万円を計上しており、教育活動外収支差額は1億6百万円となる見込みである。

（3）特別収支について

施設設備の整備に係る補助金その他収入として1千8百万円を計上している。

これらにより、基本金組入前当年度収支差額は7千6百万円を見込んでいる。当年度の基本金組入額は、施設・設備の整備及び教具・器具・備品の取得及び借入金返済などにより4億3千9百万円を計上している。この結果、当年度収支差額は3億6千4百万円の支出超過となる見込みである。

2. 資金収支予算書について（別表7）

収入の部は、学生生徒等納付金収入、資産運用収入、退職金団体交付金を含む雑収入などにより、当年度収入額は78億1千3百万円となり、前年度繰越支払資金27億1千2百万円と合わせて収入額合計は105億2千4百万円となる見込みである。

支出の部は、人件費支出、教育研究経費・管理経費支出、借入金等返済支出、施設・設備関係支出等により、当年度支出額は75億6千1百万円となり、翌年度繰越支払資金は27億2千7百万円となる見込みである。

別表6

平成28年度 事業活動収支予算書 (単位：百万円)

教育活動収支	事業活動収入	科目	金額
		学生生徒等納付金	4,022
		手数料	98
		寄付金	57
		経常費等補助金	893
		付随事業収入	3
		雑収入	127
		教育活動収入計	5,199
教育活動支出	事業活動支出	科目	金額
		人件費	2,828
		教育研究経費	1,910
		管理経費	501
		徴収不能額等	8
		教育活動支出計	5,246
		教育活動収支差額	△ 47
教育活動外収支	収入	科目	金額
		受取利息・配当金	129
		その他の教育活動外収入	0
		教育活動外収入計	129
教育活動外支出	支出	科目	金額
		借入金等利息	23
		その他の教育活動外支出	0
		教育活動外支出計	23
		教育活動外収支差額	106
		経常収支差額	59
特別収支	収入	科目	金額
		資産売却差額	0
		その他の特別収入	18
		特別収入計	18
特別収支	支出	科目	金額
		資産処分差額	1
		その他の特別支出	0
		特別支出計	1
		特別収支差額	17
		基本金組入前当年度収支差額	76
		基本金組入額合計	△ 439
		当年度収支差額	△ 364
		前年度繰越収支差額	△ 2,715
		翌年度繰越収支差額	△ 3,079
(参考)			
		事業活動収入計	5,346
		事業活動支出計	5,270

別表7

平成28年度 資金収支予算書 (単位：百万円)

科目	金額
収入の部	
学生生徒等納付金収入	4,022
手数料収入	98
寄付金収入	57
補助金収入	910
資産売却収入	2,300
付随事業収入	3
受取利息・配当金収入	129
雑収入	127
借入金等収入	1
前受金収入	971
その他の収入	247
資金収入調整勘定	△ 1,052
当年度資金収入合計	7,813
前年度繰越支払資金	2,712
収入の部合計	10,524
支出の部	
人件費支出	2,822
教育研究経費支出	1,279
管理経費支出	468
借入金等利息支出	23
借入金等返済支出	250
施設関係支出	28
設備関係支出	99
資産運用支出	2,540
その他の支出	200
資金支出調整勘定	△ 148
当年度資金支出合計	7,561
翌年度繰越支払資金	2,727
支出の部合計	10,524

(注) 金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計額等が一致しない場合がある。

文学部に 都市文化デザイン学科 新設

平成二十九年四月、文学部に新たに「都市文化デザイン学科」が誕生します。近年の各種メディアの進化や新たなツールの創出等により表現方法の多様化が劇的に進み、コミュニケーションの方法も多岐にわたってきました。こうした新たな時代にはそれに相応した適切な情報発信が必要であり、これに対応する表現力や情報発信力を備えた人材の育成が求められます。

また、我が国は現在、観光地・文化発信地として改めて世界から注目されています。従来の文学や文化等の理解はもとより、「クールジャパン」と称されるものの一つでもある、マンガ・アニメ・ゲーム等が集結する秋葉原に代表される独特の文化など、昨今の都市や地域で形成される新たな文化社会（都市文化社会）を理解することなく、今後の日本を語ることはできません。

こうした状況を鑑み、これまで国文学科と中国文学科で培ってきた日本や東アジアの文学・文化についての知見等を基盤に、文芸文化や都市文化社会に関する表現力と発信力を持ち、新たな文化の再編創出への意欲やICTを駆使した情報発信のスキルを持ち合わせたコミュニケーション能力の高い人材を育成するため「都市文化デザイン学科」を設置することとしました。

詳しくは、本学ホームページ内の二松學舎大学受験生サイトから「都市文化デザイン学科」を御覧ください。

編集後記

大雨・猛暑と天候不順が続いておりましたが、父母会会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。

四月六日に新入生を迎え、五月の定期総会で新体制も整いました。六月からは予定通り地区別懇談会を開催し、四年生の就活も本格化してまいりました。気が付けば平成二十八年度の前期の試験期間の真っ只中となっております。

さて、総会でも話がありました。が来年の一四〇周年を記念して『漱石アンドロイド』なるものも開発されているようです。また、選挙年齢が十八歳に引き下げられて最初の参議院選挙も行われました。うかうかしていると時代に取残されてしまうように感じている方もいらっしゃるのではないかと推察します。

先日の地区別父母懇談会での『就職に関する講演会』でも、我々父母の世代の就活状況とはかなり変化しており、不易流行があるものの、父母として、これまでの人生経験だけでは不十分であることを痛感いたしました。

これからも、大学と手を携えて、学生のためになる父母会活動をさせて頂きたいと思っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。